事例紹介④

ICT活用等による商業科の授業改善

県立岡山東商業高等学校

1 はじめに

本校は一斉指導が中心の授業も多く、自分の授業に行き詰まりを感じている教員も少なくなく、今年度は「チョーク&トークからの脱却」をテーマにかかげ授業改善をすすめています。

2 ICT活用で生徒の学びを促進

平成24年度から3年かけて、プロジェクターと教材提示装置を全教室に設置するとともに、無線LAN環境などを導入し、ICT環境を整え、授業にモバイル端末を活用し生徒の学びの効果を高めようとしています。

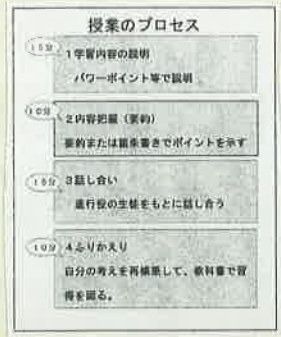
これまでは生徒に教材や動画を見せるなど教員が指導するための利用でしたが、生徒が話し合ったり考えたりする活動を促進するための道具として活用法を模索しています。

3 身近な話題から経済を学ぶ

専門教科商業では、経済事象を主体的に考察できるようにすることが大切であるとされています。

『ビジネス経済応用』の指導に当たっては、毎時間、新聞記事を使って、その時間の学習内容を説明し、次に要約をさせます。続いて生徒が自分の考えを示し、内容について自分の考えを話し合います。その際、進行も生徒自らが行います。最後に振り返りとして、自分の考えを再構築して、教科書で習得を図ります。

新聞記事等を教材として身近な話題から経済を学ぶものであり、経済社会の動向に着目させ、経済事象を主体的に理解し深化させることにより、学習の視野を広げる効果がありました。



4 興味関心を喚起し、主体性や表現力の育成、思考の深化へ

ジグソー法は、正解に至る過程が複数ある課題について、グループのメンバーがそれぞれ異なるプロセスを学び、互いに説明し合うことで理解を深め、正解を導き出す教育手法です。ジグソー法の優れたところは、第一に生徒の主体性や表現力の育成に効果的であることです。第二は生徒の興味・関心を喚起できることです。そして第三に生徒が深く思考できることが挙げられます。

実際に、ジグソー活動では、そのグループで自分だけが知っている内容を説明しなければならないため、誰もが発言をしなければなりません。責任を持って発言しなければならないという側面が、主体性や表現力の育成に効果的と考えられています。

エキスパート活動やジグソー活動を体験することで、自分の考えを言うことに抵抗がなくなり、よりわかりやすい説明を試みるようになる生徒もみられ、これらにより生徒が教科に対する興味・関心を持ち続けられ、普段の授業や学習にも良い影響がでてきました。

『広告と販売促進』の授業では、「『販売とは商品を売るのではなく、人格を売る。』という言葉があるがそれはどういうことか」を学習課題として、エキスパート活動では、「3秒で決まるビジネス」、「販売員に必要な資質と知識」、「入りやすい店、また行きたい店」という資料を三つのパートに分かれ理解を深め、その後それぞれのパートの知識を組み合わせて、問いへの答えを作ります。

最初は戸惑っていた生徒も、回を増すごとに、だんだんと説明するのにも慣れ、理解も進み、活動を繰り返すことで、生徒自身が、考え方や学び方そのものを学んでくれたと思われます。

ジグソー活動の様子

5 グループワークを中心とした展開

グループワークを中心とした授

業としては、代表的なものには、ケースメソッド教育があります。企業の事例をケースとして取り扱うので、実践的に学習するなかで、課題の発見や適切な行動が期待でき、討論の中で生徒の能力を引き出し、多様な視点を学ぶことができます。

本校でも、『ビジネス基礎』、『マーケティング』、『広告と販売促進』、『商品開発』、『経済活動と法』、『ビジネス経済』などの科目で取り組み、生徒の多様な能力を引き出すなど効果が生まれています。

また、『情報処理』では、考える学習活動を進めるにあたり、シンキングツールの活用をとおして、自分の振り返りを行うことで思考力を高める効果がみられるなど、グループワークだけでなく、多様な教育手法を用いて授業改善に努めています。

6 タブレット型パソコンの導入で、生徒の授業への主体的参加や理解へ

今年度、10月に22台のタブレット型パソコンを導入、既存と併せて32台となりました。共通教科においても授業での本格的な活用法の研究をはじめました。

『生物基礎』の授業では、酸素解離曲線の見方を復習したのち、グループごとに実際に行う実験をデザインしました。タブレット型パソコンを使って、実験の様子を写真や動画に撮影し、結果や考察を行い、次回の授業でプレゼンを行う授業を展開し、主体的・能動的な学習となるよう工夫しています。タブレット型パソコンの利用で生徒の思考力、表現力が高まり授業への興味・関心が高まりました。

タブレット型パソコンを活用した「生物基礎」

7 公開授業で授業改善をすすめる

これまでも校内においては、6月と11月に公開授業週間を設けていましたが、それに合わせて、本校において取り組んでいるアクティブ・ラーニングによる授業を先生方に紹介しました。また、本校の取組の充実発展を図るために、11月4日に校外にも呼びかけてアクティブ・ラーニングの公開授業を実施しました。

この公開授業から岡山大学大学院教育学研究科宮本浩治准教授に授業改善のアドバイザーとして、支援していただいています。

今回は、専門教科商業としては、「豊岡からの挑戦」と題する新聞記事を用いて地域ビジネスのあり方を問い、思考力・判断力、表現力を高める授業『ビジネス経済応用』と、ケース教材「商業高校　開発商品に学ぶ」を用いて、商品を開発する際に、商品コンセプトをどのように設定するかを理解させる『商品開発』を、また、共通教科では、「to不定詞の文を使って、行動の目的を話すこと」をねらいとして、夏休みにどこに何を目的に行ったか考え、英文を書き、グループの中で紹介し合い、グループを移動し自分のことを伝え、元のグループで聞いた一人の過ごし方を紹介するワールドカフェ型の授業『英語表現Ⅰ』と、前述のタブレット型パソコンを活用した『生物基礎』の授業を実施しました。

ワールドカフェ型の「英語表現Ⅰ」

次は校内研修として2月3日に第2回目を予定しており、若手教員を中心に、簿記、英語会話、数学Ⅰ、国語総合の授業を公開し、そのあと教員を対象とした授業改善の研修会を計画しています。このように授業公開をおこなうことにより、先生方の授業に対する意識も少しは変化がみえてきました。

8 おわりに

このように新しい授業に挑戦する場合、教員だけでなく、生徒も慣れず、上手くいかないことも少なくありません。授業改善は、学校全体で推進できるように組織を整え、一人一人の取組をサポートする必要があると考えます。そのためにも、今年度の後半から不定期ではありますが、「授業通信」を発行し、みんなで取り組む体制を模索しています。

授業通信

これからも、生徒の能力を引き出し、学力向上につながる継続的な授業改善を推進していきます。

（指導教諭　笠木　秀樹）